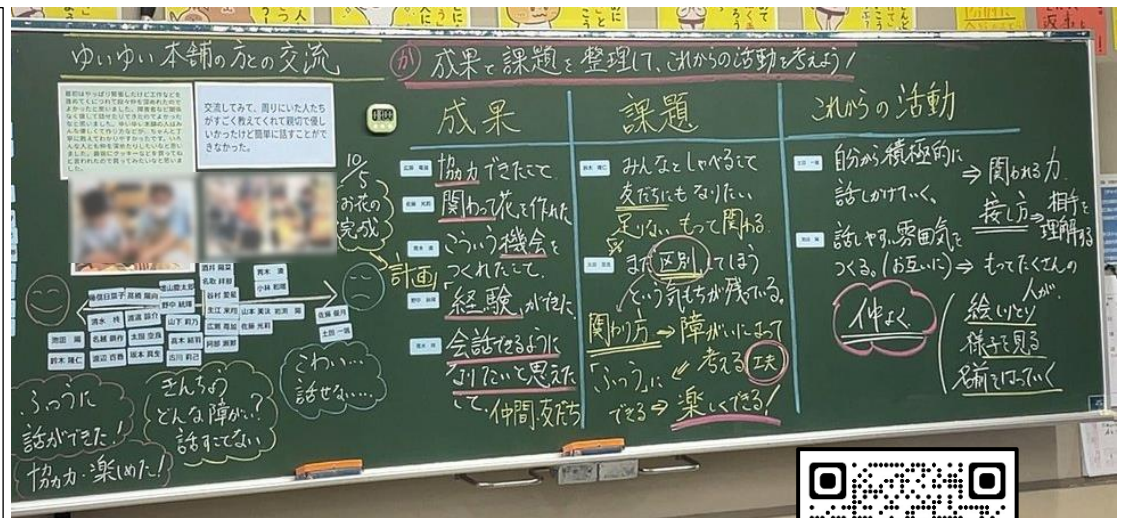


第5学年 総合的な学習の時間 「わたしたちと福祉」

児童
東神楽町立東聖小5年
しらかば組34名

授業者
東神楽町立東聖小
教諭 小林 豊



←指導案の
データは
こちら。
(上教研 HP)

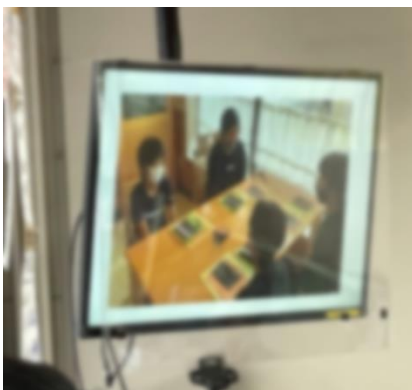
本時の目標 (8/27時)

「ゆい・ゆい本舗」で働く方々との交流から、自分たちがもつ課題に気付き、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができる。【思考・判断・表現】

導入



単元全体の流れを児童と確認することから授業開始。ゲストティーチャーである「ゆい・ゆい本舗」の職員さんの紹介も行いました。



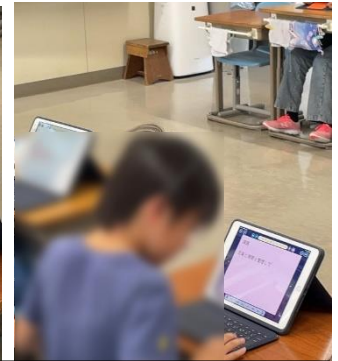
9月26日(水)に体験した交流の写真や動画、取材を受けた新聞記事、児童のふり返しなどを提示することで、体験を想起しました。



体験を受けての自分の気持ちを、心情メーターに示しました。それをもとに、体験に対する自分の気持ちを友達と伝え合いました。

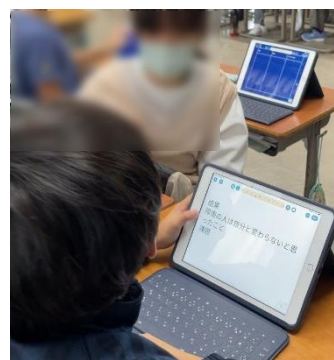


伝え合ったことを、全体共有します。小林教諭が問い返すことで「楽しめた。」「少しこわい。」と言った思いを発表しました。



交流を経て、成果・課題の両面があることを確認し、「成果と課題を整理してこれからの活動を考えよう」という課題を共有しました。

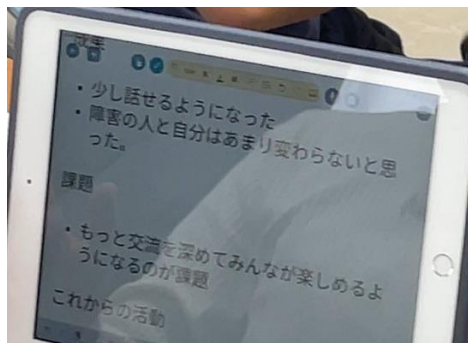
展開



今回の体験の「成果」「課題」「これからの活動」について交流します。交流した内容は、タブレット端末に入力して共有していきます。



交流をしている児童に対して「なんで?」「それはどういうこと?」と問い返してまわることで、思いを引き出していく小林教諭。

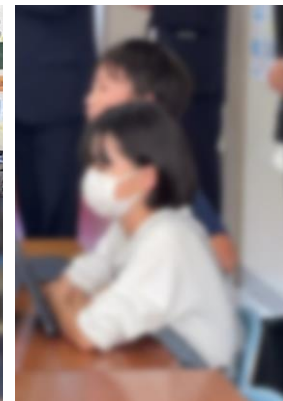
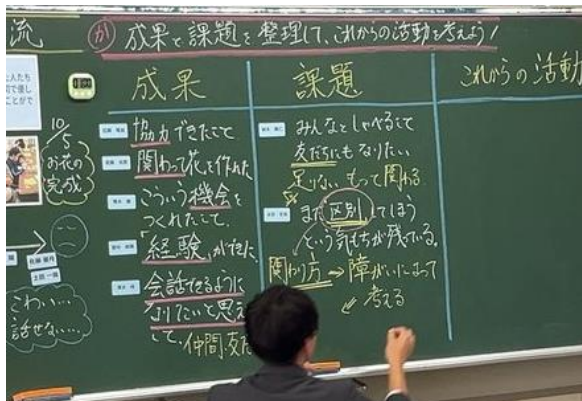


交流をして気付いた自分の思いや友達の思いを、文章にして残していきます。「成果」「課題」「これから」に分けて整理しています。



伝え合ったことを、全体共有しました。まずは「成果」です。

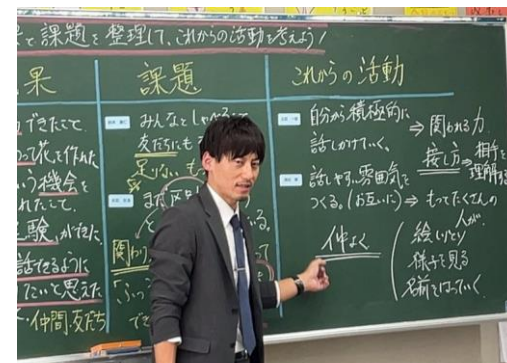
- ・クラスのだいたいの人が話すことができたのが成果。 ・人と関わって花を作ることができた。
- ・課題はあったけど、こういう機会があったから課題に気付くことができたことが成果。 ・初めての経験になったこと。
- ・もともと、こういうこと（障害のある人たちのこと）を考えたことがなかったもん。 ・会話できるようになりたいと思えた。



次は、「課題」の全体共有です。

- ・「ゆい・ゆい本舗」の人みんなと話してみたい。 ・作業の時間だけじゃ、友達になれない。 ・みんなと話して友達になりたい。
- ・まだ区別の気持ちがある。 ・交流して楽しかったけれど、話してもらえないことがあったのが悲しいと思った。
- ・障害のある人との関わり方が難しい。 ・まだ、どう関わっていけばいいかわからないという気持ちがある。

小林教諭は、「似た人いる?」、「『たしかに!』ってどういうこと?」、「詳しく言って。」と、さらに深い思いを引き出していきます。それにより、 ・関わり方を障害によって考えていく。といった、「これからの活動」に関わる思いが出てきました。

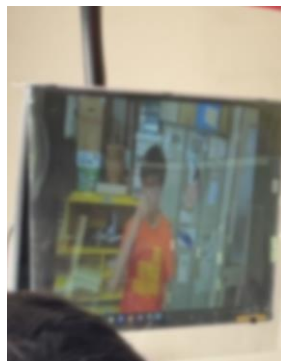


再度、体験の様子の動画を示すことで、「課題」となったことから「これからの活動」の具体についての思いを引き出していきます。

- ・ホワイトボードや手振りをを使って話せば普通に話せた。そうやって話すのがいい。 ・家族や友達みたいにできると嬉しい。
- ・サポーターさんと話して、伝えてもらえば話せる。 ・あまり積極的じゃなかったから、自分から積極的に話しかけていく。
- ・お互いに話しやすい雰囲気を作っていくことが大事。 ・積極的に話していくと、接し方がわかって関われる力がつくと思う。



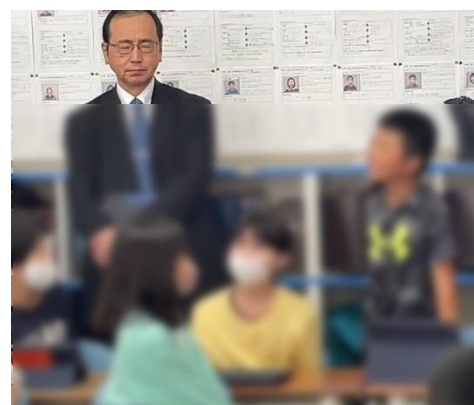
終末



児童から出た「相手の人たちはどう思っていたのか？」という疑問から、「ゆい・ゆい本舗」利用者さんからのビデオレターを視聴。



その後、職員の野々村さんのお話を聞きました。動画とお話から、利用者さんの「交流して楽しかった」という思い、野々村さんの「1回のかかりだけでこままでの思いをもつことができ、びっくり。嬉しい。」という思いを受け取ることができました。



小林教諭の「10月5日(木)のお花を完成させたら交流は終わりなのだけれど、これで終わりでいい？」という問いかけに対して、
・また交流したい。・交流の計画を立てたい。という思いが表出。**「作戦を立てて次回の交流につなげる。」という新たな学習の見通しを全体で共有しました。**最後に、学習のふり返りです。タブレット端末で記入をしました。その後、
・今回の交流を通して、もっと「ゆい・ゆい本舗」の人と関わりたいと思った。
・何回も交流すると、だんだん話せるようになると思うので、話していきたい。と、2人の児童が発表して授業が終わりました。



児童が関わり合って学ぶ姿がたくさん見られました。

小林先生、大変お疲れ様でした！